

## PMシンポジウム2008 開催のご案内

わが国では、20世紀の成長を支えてきた団塊世代から新たな世代への移行期にあたるとともに、グローバル化に伴う国際競争の激化、地球規模での環境問題・エネルギー問題等の従来の経験則では対応できない課題に直面しています。

今回のシンポジウムでは、こうした様々な課題に取組み、明日への変革へと切り拓いていくための体系の一つとしてプロジェクトマネジメントを位置付けます。この視点から、プロジェクトマネジメントに期待するところ、果たすべき役割は何かを考えます。

### 明日への変革に向けて (P2Mの視点)

明日への変革を切り拓く活動として、プロセスのマネジメントに留まらない、事業概念から発する使命の達成を目標とする価値創造事業(イノベーション)に照準を当て、イノベーションとプログラム & プロジェクトマネジメントをテーマとしたイノベーショントラックを新設します。

### 総合力と人間力 (PMを推進する力)

変革をもたらすプロジェクトを推進するのは、組織としての総合力を発揮させるプロジェクトマネジメントとともに、メンバー一人一人の人間力です。組織の「総合力」を磨き、その構成要素でもあるメンバーの「人間力」を磨くということについて考えます。

### 参加型シンポジウム

CFP(公募に基づく講演)も引き続き実施します。優れた応募作が多く定着して来ましたが、またセミナー/ワークショップでの頭と手を動かしての能動的な関わりにもご期待ください。

- ITトラック
- P2Mトラック
- エンジ・建設・公共トラック
- イノベーショントラック
- 製造・サービストラック
- 金融トラック
- PM人材育成トラック



各種ポイントの認定対象となる

## PMシンポジウム2008

■ CPU ■ PDU ■ PM教育受講証明 ■ 知識ポイント

### ■ CPU

発給ポイントは以下の通りです。(1時間当たり2ポイントが基本となります)

- 1日目(全時間出席の場合) : 10.5ポイント
- 2日目(半日講座) : 5ポイント
- 2日目(1日講座) : 11ポイント

CPU取得証明書を発行いたします。

### ■ PDU

ENAAはPMI®認定教育プロバイダー(REP)であり、本大会は、メイン・シンポジウム並びに2日目のセミナー共にPMP®向けのPDU発給対象となっております。発給ポイントは以下の通りです。

- 1日目 : 7PDU
- 2日目(半日講座) : 3PDU
- 2日目(1日講座) : 6PDU



PMI®へのPDU申請は必ず一括で行ってください。(初日・2日目を分割するとエラーになります。)また、PMP®資格認定試験受験用受講証明書も発給致します。

### ■ 知識ポイント(ITコーディネータ)

ITコーディネータ資格者には、協賛(後援)により4時間当たり1ポイント相当(上限なし)の「知識ポイント」が付与されます。

## 1日目 午前

### 基調講演 1

9月4日 10:00~

## JAXAにおけるプロジェクトマネジメント



### 宇宙航空研究開発機構 技術参与(統括チーフエンジニア) 工学博士 向井 利典

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の使命は、宇宙科学、地球観測、通信測位、国際宇宙ステーションによる有人宇宙活動および宇宙環境利用の促進、宇宙輸送、更には航空も含めて、よいミッションを創り、それを成功に導くこと、また、それらを通じて我が国の宇宙航空技術を持続的に発展させることにある。宇宙開発には、大規模で複雑、長期に亘る、一発勝負、地上では経験しえない極限環境などの特徴がある。2005年10月に新たに設置されたチーフエンジニア・オフィスでは、その使命を果たすべく中長期的な視点で開発業務の改革に取り組んできた。

この取り組みでは、まず、開発業務の核となるシステムズエンジニアリングとプロジェクトマネジメントの改善に焦点が絞られ、具体的な計画が実行されてきたが、課題を解決して前述の使命を真に果たすためには、これらのみならず、経営層を含めた意思決定のメカニズム、戦略的な研究、知識の継承、人材の育成などの所謂技術経営(マネジメント)とそれらを効果的に実施するための組織構造が有機的な関連をもって必要となる。

本講演では、これらの改善に関する基本的な考え方と施策を述べ、併せて、まもなく軌道上での本格運用が開始される国際宇宙ステーションにおける日本実験モジュール(JEM)や宇宙科学などの成果のハイライトを紹介する。

【講師略歴】1968年、京都大学大学院工学研究科修士課程修了後、東京大学宇宙航空研究所に入所、その後、文部省宇宙科学研究所にて太陽系プラズマ研究系助教、教授、同研究系主幹。2003年10月、宇宙3機関の統合により、宇宙航空研究開発機構(JAXA)・宇宙科学研究本部宇宙プラズマ研究系主幹。約40年にわたり、宇宙科学の分野でプラズマ観測装置の開発を担当し、これまで、日本のすべての磁気圏観測衛星およびハレー探査機に搭載されたプラズマ粒子観測の主任研究者を務めるとともに、関連する科学衛星プロジェクトにおけるマネジメントに従事した。また、ESAとの国際共同水星探査計画の立上げに指導的役割を果たした。2005年10月よりJAXA技術参与(統括チーフエンジニア)。工学博士。

### 基調講演 2

9月4日 11:05~

## 働きがいを生むスポンサーシップ

### 株式会社スコラ・コンサルト 代表 柴田 昌治



人の自発性を大事にする「スポンサーシップ」が機能している組織では、社員を信頼し主役にしようと努力するトップのもとで、社員はいきいきと自分たちで考えて仕事をしている。会社や上司がそうしろと言うからそうしているわけではなく、社員が自分たちの意志と動機にもとづいて考え、動いている。企業が変化に対応して進化を続けていくためには、●つねに問題を見えるようにして解決していくことが「損」にならない風土、●社員が主体的であることに価値を置いて支援するマネジメント、●社員の「考える力」と「チーム力」が育つような話し合いの場、が不可欠だ。では、どのようにしてそれを実現していけばいいのか。

ここでは、1.何が社員に閉塞感をもたらしているのか 2.問題解決のサイクルを回す 3.当事者になるために、という3つのテーマで、「スポンサーシップ」の実践について紹介していく。

【何が社員に閉塞感をもたらしているのか】 つねに問題を発見して解決することをよしとしている組織か。問題に対して「対応策」ばかりを持ち込んでいないか。風土・体質にみる剛構造の組織、柔構造の組織。考える力を引き出すマネジメント、押しつぶすマネジメント。

【問題解決のサイクルを回す】 対応力の源は「考える力」と「チーム力」。「会社のため」ではなく「自分のため」に。「経営に対する信頼感」と「仲間に対する信頼感」をつくる。「気楽にまじめな話をする場」で深い議論をする。

【当事者になるために】 当事者と評論家の違い。リーダーシップからスポンサーシップへ。部下を当事者にする「スポンサーシップ」とは、「対話」が当事者に必要な考える力を鍛える。

【講師略歴】株式会社スコラ・コンサルト代表。1979年東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。大学院在学中にドイツ語学院を始め、30代の頃はNHKテレビ語学番組の講師を務める。ビジネス教育の会社を設立後、80年代後半から企業風土・体質改革のコンサルティングに取り組む。変化を妨げている価値観を変えながら変革のプロセスをつくり込んでいく「プロセスデザイン」というやり方が特徴。社員が主体的に人と協力し合っていくべきだと動く会社をめざし、社員を主役にする「スポンサーシップ経営」を提唱、支援している。著書書:「なぜ会社は変わらないのか」「トヨタ最強の経営(共著)」「会社を変える人の「味方」のつくり方」「なぜ社員はやる気をなくしているのか」「柴田昌治の変革する哲学」(いずれも日本経済新聞出版社)ほか